

芸術

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
芸術	書道Ⅱ	2	2年次・D2群	自由選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
書Ⅱ（光村図書）		筆・筆巻き・作品ファイル		・1年次で書道Ⅰを履修していること。

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、多様性について理解するとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにしている。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとしている。

2 学習計画と観点別評価項目

学 習 の 年 間 計 画	学期	学習内容（単元・項目）	月	学習のねらい	評価の観点
	1 学 期	漢字 1 オリエンテーション 2 漢字の書の学習 (1) 篆書の学習 (2) 隸書の学習 (3) 草書の学習	4	・書道Ⅱの授業内容を説明し、書道Ⅱで学ぶ目的意識を明確にする。	1 3
			5		1 2 3
			6 7	・漢字の書を構成するさまざまな要素や、篆書・隸書・草書の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・篆書・隸書・草書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体構成の技能を身に付ける。	1 2 3 1 2 3 1 2 3
2 学 期	漢字 (4) 行書の学習 (5) 楷書の学習	9 10 11 12	・漢字の書を構成するさまざまな要素や、行書・楷書の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・行書・楷書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体構成の技能を身に付ける。	1 2 3 1 2 3	
3 学 期	仮名 3 仮名の書の学習 (1) 古筆の鑑賞 (2) 仮名の臨書 (3) 仮名の創作	1 2 3	・「高野切」、「本阿弥切」、「関戸本古今和歌集」を鑑賞・臨書することにより、仮名の線質、字形、構成等の要素と表現効果の関わりについて理解を深める。 ・書の美と時代、風土、筆者などの関わりについて理解を深める。 ・仮名の古筆に基づく効果的な表現の技能、墨継ぎや散らし書き等による全体の構成の技能を身に付ける。 ・作品の制作意図を発表し互いに鑑賞する。	1 2 1 2 3 1 2 3	

令和5年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
学習評価	規準	○書の表現の方法や形式、多様性について理解しているか。 ○書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けているか。	○書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにしているか。	○主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとしているか。
	手段	・制作の様子 ・自己評価表 ・作品	・制作の様子 ・自己評価表 ・作品	・制作の様子 ・自己評価表 ・作品
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法	単元末や学期末ごとに評価を総括し、年次末に、単元末と学期末の総括を行い評価する。		
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・定期考査は行わないので、集中し授業に参加しましょう。 ・用具や用材、書道教室は、みんなで共用しています。一人一人がマナーを守って、気持ちよく使用できるよう心掛けましょう。 ・筆、半紙、墨などが必要なため、教材費として2000円程度を徴収します。 			